

首都高速道路を ETC専用

首都高では、近年のETC利用率拡大(96.7%：2021年9月)等の社会情勢の変化を踏まえ、2022年4月から34箇所の料金所を新たにETC専用とします。2025年度中までに約9割(約160箇所)まで順次拡大していく予定です。

首都高のETC専用に向けた流れ

2022年度

34箇所

2025年度

約9割
(約160箇所)

2030年度頃

すべての料金所

首都高の料金所は、2022年4月^{*}に新たに34箇所
2025年度中までに約9割がETC専用となります。

※5箇所は2022年3月1日から開始します。

料金所がETC専用になると

01 空いている時間帯や経路の割引など、柔軟な料金設定が容易になり、混雑を緩和してお客さまの生産性向上を図れます。



02 人員確保が困難になる中、係員がいなくても料金所の機能を維持できます。



03 お客さまや係員の感染リスクを軽減できます。



ETC専用の料金所には、サポートレーンを整備します

ETC車載器を搭載していない車両はご通行になれません。なお、誤ってETC専用の入口に入ってしまった場合は、「サポート」表示のレーンにお進みいただき、インターホンにより係員の指示に従ってください。

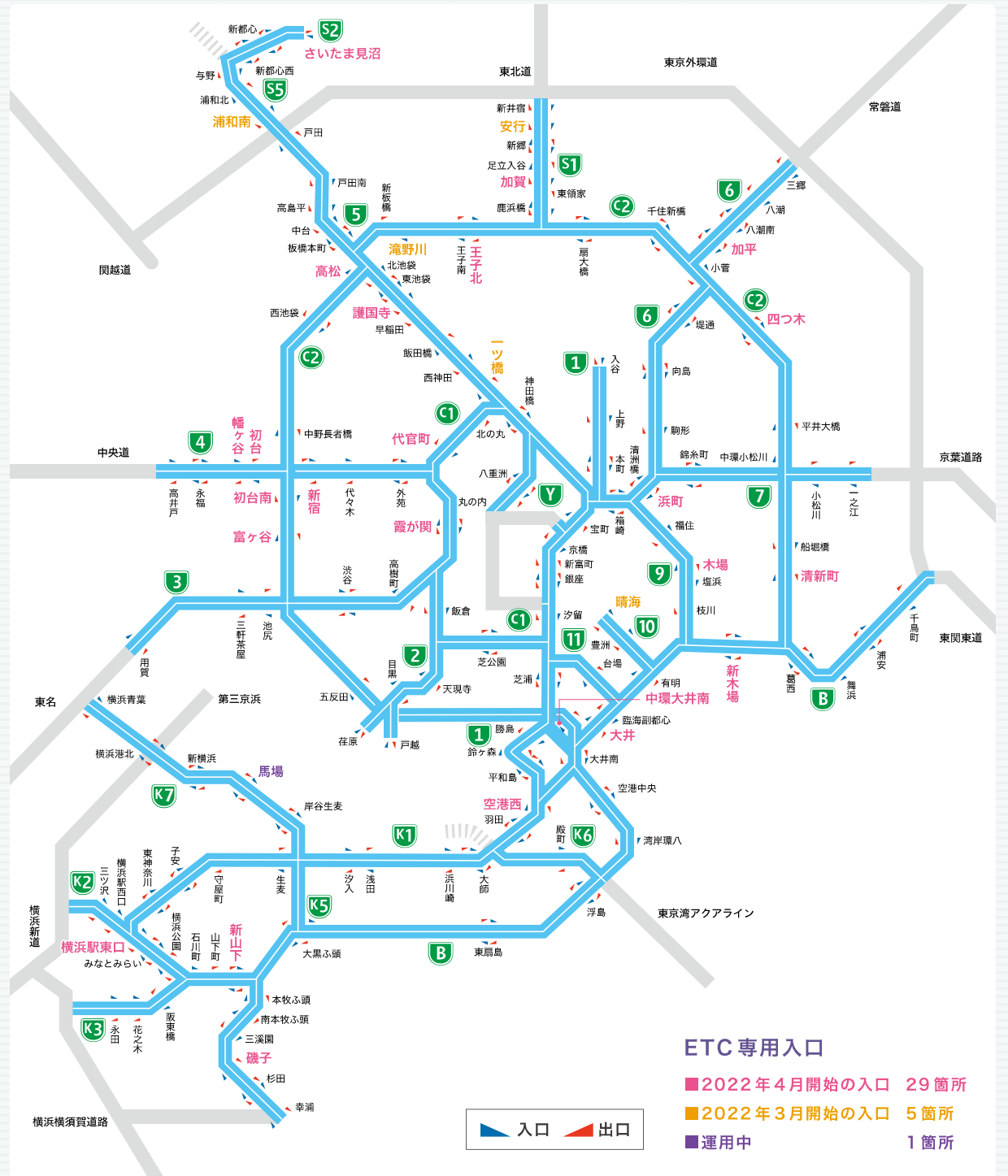
(状況により ETC サポート の場合もあります)



イメージ図

新たにETC専用となる入口の一覧

No.	入口名	方向	路線名
1	霞が関	内	都心環状線
2	霞が関	外	
3	代官町	内	
4	空港西	上	1号羽田線
5	新宿	上	4号新宿線
6	初台	下	
7	幡ヶ谷	上	
8	一ツ橋	下	5号池袋線
9	護国寺	上	
10	中環大井南	外	
11	富ヶ谷	外	中央環状線
12	初台南	内	
13	滝野川	内	
14	高松	外	
15	王子北	外	
16	四つ木	内	
17	四つ木	外	
18	清新町	内	
19	さいたま見沼	上	埼玉新都心線
20	浦和南	上	埼玉大宮線
21	浜町	上下	6号向島線
22	加平(南)	上下	6号三郷線
23	加平(北)	上下	
24	晴海	下	10号晴海線
25	加賀	上	川口線
26	安行	上	
27	新木場	西	湾岸線
28	新木場	東	
29	大井	東	
30	磯子	東	
31	木場	上	9号深川線
32	横浜駅東口	下	神奈川1号横羽線
33	新山下	上	神奈川3号狩場線
34	新山下	下	



ETC専用化等のロードマップについて

都市部(首都圏)

都市部において
5年後概成

地方部を含めて
10年後概成

	料金所数 (※1)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	...	2030年度頃 (R12年度頃)
首都高速	181	導入準備 (※2)		30箇所 程度で順次導入		順次拡大(9割) (30→160箇所程度)		順次拡大 ⇒ 全線		
NEXCO 東日本	125	導入準備 (※2)		首都圏(圏央道及びその内側) 数箇所導入 ⇒ 順次拡大(7~8割程度) (90箇所程度)(※3)				順次拡大 ⇒ 全線		
NEXCO 中日本	22	導入準備 (※2)		首都圏(圏央道及びその内側) 数箇所導入 ⇒ 順次拡大(8割程度) (20箇所程度)				順次拡大 ⇒ 全線		

※1 令和2年12月1日現在の既存料金所のうちETC専用運用されていない課金料金所数

※2 カメラ等の設置や関係機関との協議等

※3 料金所の構造や交通量が多く、並行又は接続する一般道を含めた渋滞等の課題がある路線(第三京浜・横浜新道・横浜横須賀道路・京葉道路・東関東道)の料金所については、引き続き検討

※4 導入後の運用状況、ETCの普及状況、関係機関との協議等により、適時変更の可能性